

公益社団法人富山青年会議所

2019年度理事長所信

理事長 在田 吉宏

前へ。

～一人ひとりの個性が輝くまちの実現に向けて！～

### 【はじめに】

AIやIoTなどの急激な技術発展によって、これまでひとが担ってきた社会的な役割や仕事がロボットや機械に少しずつ代替され、ひとの役割が大きく変わっていくことが予想されます。また、少子高齢化や国際化の浸透といった社会環境の変化により、社会構造やシステムも大きく変化し、多様な価値観が共存する社会になりつつあります。変化と多様性の溢れる時代だからこそ、このとやまを、住み暮らすひとの個性を輝かせることができるまちにしていく必要があります。社会の変化や多様性を受け入れ、相手の考えや立場を尊重するためには、世界観という視野を広げ、自分の軸となる考え方をもつことが必要です。失敗やわからないことを恐れずに、知らないことにも挑戦していくこと、それこそが変化する社会の中で情報の海に溺れることなく、多様性の中でも自分の考え方をもつために重要なのです。まずは一歩前へ踏み出すこと、そしてこのまちに住み暮らす人々が少しずつでも描いた未来に向けて歩みを進めることで、周囲の理解を得て仲間が増え、一人ひとりの個性が輝くまちが実現できます。富山JCは、目の前に第68回全国大会富山大会という大きな事業を控えています。この大会を一人ひとりの個性が輝くまちの実現の大きなきっかけにしなければなりません。変化と多様性の溢れる世界において、このとやまに住み暮らすひとたちの個性を輝かせ、さらなるとやまの発展に繋げていきましょう。

### 【全国大会という最大のきっかけ】

2012年に全国大会への歩みを始め、いよいよ本年度は公益社団法人日本青年会議所第68回全国大会富山大会が開催されます。全国から1万人を超える会員が一堂に会して行われる全国大会は、JC運動そのものであり、まちづくりを加速させる最大のきっかけです。全国大会を主管することで、志を同じくする全国の仲間たちとの交流を通しての会員の意識昂揚、さらには地域をも活性化させることができます。また、全国から集まった会員にとやまの魅力、そしてとやまに息づく精神性である「謹厳実直の心」を体感していただき、参加した会員が全国大会富山大会での学びを各地での運動に活かしていただくことで、各地域へ影響を与え、ひいては日本全体を変えていくことに繋がります。

全国大会主管に向けては、誘致段階からの富山JC内での様々な議論や活動、また日本

J Cへの出向者輩出による情報収集や関係の構築など、富山J C全員で一丸となって取り組んでいます。実直に現実と向き合い続ける「謹厳実直の心」を携えた富山J C会員が、改めてこのまちの抱える課題に取り組み、様々な創意工夫によってとやまの魅力を発信していくことで、まちづくりを進めていきます。そして、この全国大会に一丸となって取り組む中で、富山J C会員同士の絆がより強固なものとなり、まちづくり運動をさらに加速させていくことができます。

全国大会は主催者である日本J Cと、主管である富山J Cと一緒に創り上げていくものであり、日本J C、北陸信越地区協議会、富山ブロック協議会をはじめとして、市民や行政、関係諸団体等、そして最大の理解者である富山J Cシニア会員のご理解ご協力の下、創り上げています。とやまのまちに住まう多くのひとたちが心を寄せ、一致団結してこの大会を構築することで、市民のまちづくりに対する意識を醸成し、とやま全体を盛り上げていけると確信しています。そして、様々な組織や年齢、性別のひとたちが一緒に活動していくことで、私たち富山J Cだけでは成しえない新たな価値を生み、それぞれの枠組みを超えた有機的なネットワークが構築され、地域に良い影響を与えることができます。第68回全国大会富山大会を通して、会員同士の絆をより強固なものとして、一丸となって今後のまちづくりに取り組んでいくとともに、市民や行政との繋がりをより密接にし、これまで以上にまちに寄り添ったまちづくりの形を実践していきましょう。

### 【まちが活性化する好循環を目指して】

まちづくりは市民と行政とまちづくり諸団体が三位一体となって連携して行っていくべきものです。しかし、行政や一部のまちづくり諸団体の想いだけでまちづくりが進むこともあり、主役であるべき市民が意思表示を行わずにまちづくりに関わらなければ、まちづくりの仕組みがうまく機能しないことが懸念されます。理想のまちを実現するためには観光や集客はあくまで手段であり、市民がいつの時点でどう在りたいかということが最も重要なことです。市民がこのまちをどうしたいかと考えていくことが、まちづくりに対する意識の醸成に繋がり、主体的にまちづくりに関わるひとが増えていきます。市民がより積極的にまちづくりでの役割を担うことで、行政、まちづくり諸団体がそれぞれの強みを活かしたまちづくりを活性化させることができ、三位一体となってまちづくりが活性化する好循環に繋がります。

このとやまにおいて、多くのひとや団体がまちづくりに主体的に関わっていますが、単独で活動している団体も多くあるために、認知度をより高くしたり、それぞれの組織同士が協力することで、まちづくり運動をさらに活性化することができる可能性があります。時にはけん引役として、時には調整役として、ひとや諸団体を支えることのできるまちづくりプラットフォームがあれば、それぞれの活動をより活性化させることができるのではないのでしょうか。富山J Cは、これまでの運動・活動の中で、行政をはじめとして様々な団体との繋がりをもっています。私たちがまちづくりに取り組んでいる個人や諸団体の活

動を結びつけるプラットフォームとなって、個人や諸団体が行っている活動の認知度向上、活動自体の活性化をサポートしていきましょう。また、行政や他のまちづくり諸団体と一緒に活動することで、これまでと違う視点で未来や方策を考えていくことができ、自分たちだけでは思いつかない新しい方策や価値も生まれていくものだと考えます。共に活動する中でひととひと、ひとと諸団体、また諸団体同士がより密接に繋がり、広がりをもった有機的なネットワークが構築されていきます。このネットワークが能動的市民を増やす礎となるのです。市民や諸団体がまちづくりに関わりたいと思うときにいつでも関わることができ、それを支援する体制が整っているまち、誰もが可能性を広げ、挑戦し続けることのできる未来をこのまちで実現していきましょう。

### 【未来を輝かせる力の育成】

日本は今、急激な技術発展や少子高齢化、国際化の浸透などにより様々な社会環境が複雑に絡み合いながら変化してきており、社会構造だけでなく社会システムにも大きな変化が予想されます。未来は今より多様性を受け入れられる社会システムになっていると予想され、様々な文化や背景、考え方や趣味嗜好の人々が溢れていると考えられます。変化と多様性の溢れる社会において、人々が直面するのは正解が一つではない課題ばかりであり、自分を取り巻く環境や自らの立ち位置にすら不安を感じるひとも多くなるでしょう。急激な環境変化の今だからこそ、自分自身とはなんなのかという本質的な問いに向き合い、自分の意思で何に着目し、どのように取り組んでいくのかということが大事になってきます。特に、これからの時代を生きる子どもたちにとっては、文化や考え方の背景が異なるひとたちとも協力し合いながら未来を創っていかねばいけません。そのため、多様性や世界の大きさを理解して受け入れた上で、主体性をもって自分で注力するものや課題を設定して取り組んでいく能力が必要です。主体性をもって課題を設定して取り組んでいくことのできるひとは、どんな状況においても自分を見失うことなく、常に自分を成長させることができます。その上で、世の中に散らばっている多くの情報や知識や能力をうまく組み合わせることで、自分の描いた未来の実現に向けて進んでいけます。変化と多様性に溢れる社会においても、主体性をもって課題を設定して行動していける人材を育てていきましょう。

### 【今後の富山J Cの発展のために】

富山J Cは溢れる情熱と高い志をもった県内の青年たちによって設立されて以来、これまで67年間にわたって様々な地域や分野で活躍してきました。この活躍の裏には、過去や経験から学ぼうとする姿勢、新しいことに挑戦しようという勇氣、徹底して本質に向き合おうという姿勢がありました。富山J Cに深く根付いてきたこれらの特徴は、私たちの運動・活動を根底で支えてきており、これからの富山J Cのさらなる発展のためにも間違いなく必要なものであります。この根底にある考え方を富山J Cの文化として確立を目指す

し、会員の成長を組織として支えていくことで、会員は自らの体験や成長を自分の言葉で語るができるようになります。しかし、J Cの行う運動・活動を通しての体験や成長も、新たな仲間を増やしていかなければ、運動・活動自体の継続も組織の持続的な発展もありません。全会員が自分たちの言葉で、富山J Cの運動や組織について積極的に語れるようになることで、市民からの運動や組織への理解が進み、運動のさらなる発展や組織自体の持続的な発展が見込めます。様々な体験を通じて成長に繋げていくという富山J Cの団体としての長所を周囲に自分の言葉で伝え、一緒に活動する仲間を増やしていきましょう。

### 【富山J Cのブランディングを】

私たちはこの地域に根ざす組織として、地域のための運動・活動をこれまで以上に展開していく上で、市民からの認知と協力が必要です。しかし、私たち自身が市民にどのようなイメージをもってもらいたいということを明確に言えるでしょうか。市民からの認知を獲得するために、私たちは誰に何を伝えていきたいかという意思を明確にして、発信していく必要があります。富山J Cは「明るい豊かな社会の実現」という目的に向かって、過去を繙き、次代を見据えながら、先進性をもってまちづくりを行ってきました。また、健全な組織運営や事業の実施を通して、会員の成長や市民の意識変革の機会を生み出してきました。これらの歴史を繙き、団体としての共通の戦略をもって市民から事業分野に対して、また富山J Cという団体に対しての共通のイメージを認知してもらうようにブランディングしていくことで、私たちの運動・活動に対しての認知度が高まり、協力へと繋がっていきます。市民の意識変革やまちづくりにおいて、常に富山J Cが選ばれる組織となれるよう、イメージ戦略を図っていきましょう。

### 【選ばれる組織として】

富山J Cは2012年7月より公益社団法人として活動しております。今後も市民の信頼に応え、必要とされる団体であり続けるために、公益性と透明性に優れた組織として法令を遵守し、財務の健全性を保つよう努めていかなければなりません。さらには、組織として揺るがない基盤をしっかりと築き上げる必要があります。これまで当たり前だと思っていることや慣例となっていることはないか、改善や改良の余地がないかを検証し、組織により良い変化を与え、組織としての信頼を高めていきましょう。

富山J Cが有する約1,000名ものシニア会員は、私たちにとって最も身近な存在であり、最大の理解者でもあります。時代の変化に合わせながら組織運営や必要とされる事業を行い、まちづくり、ひとを育ててこられたおかげで現在の富山J Cが存在しています。私たちは先達の足跡や考え方に学びながら、この先の富山J Cを創っていかななくてはなりません。感謝と敬意をもって積極的に交流を行い、お互いの想いを分かち合える関係性を築いていきましょう。また、この富山J Cには、J Cとしての経験値や歩んできた道、個

人としての性格などにおいて様々な特徴をもった会員が、このとやまを良くしようという想いのもとに集っています。その想いを実現していくためには、それぞれの長所を活かしながら、また短所を補いながら団結し、邁進していく必要があります。お互いを尊重し、切磋琢磨し合う関係性を築いていくために、会員間の積極的な交流を図っていきましょう。

組織の信頼を高めていくためには、機会を最大限に活用する必要があります。日本J Cの事業への積極的な参加は私たちに新たな気付きや学びを与え、さらなる成長の機会に繋がります。また、私たちが所属するJ Cには、同じ志のもと活動している仲間が世界中にいます。J Cのスケールメリットを活かし、世界中にいる仲間たちとの交流を図ることで、自己研鑽だけではなく、様々な情報や知識を得て、組織の活性化へと繋げてまいりましょう。

### 【前へ。】

変化と多様性が溢れた世界において、前へ踏み出すことは勇気のいることです。わからないことが多いという状況においては不安で逃げたいと思うこともあるかもしれません。そのような時こそ、まずは自分がどう行動するかを考えることが肝要です。周りの環境に動じることなく、まずは一步、勇気をもって前へ踏み出すことです。一步前へ踏み出せば、周りの状況が今より少し見えてきます。そこには志を同じくする仲間もいます。そして自分の考えの軸をもって、未来を描きながら一步ずつ確かな歩みを進めていくことで、仲間が増え、その力はいつしか大きな力に変わります。周りからの理解を得て大きな力となった時、取り巻く環境に埋もれない、そのひと自身の個性が輝くことが可能になります。その輝く個性をひとつまたひとつと増やしていくことで、このまち全体が力強く発展していきます。

とやまの今と向き合い、一步前へ踏み出そう。

そしてとやまの未来を見据えながら、一步ずつ前へ進もう。

前へ進むということに、失敗も間違いもない。

常に自分自身と向き合いながら、前へ。

自分しか歩むことのできない一步を。

その確かな一步が道を拓く。

その確かな一步に仲間が集う。

「前へ。」一人ひとりの個性が輝くまちの実現に向けて！